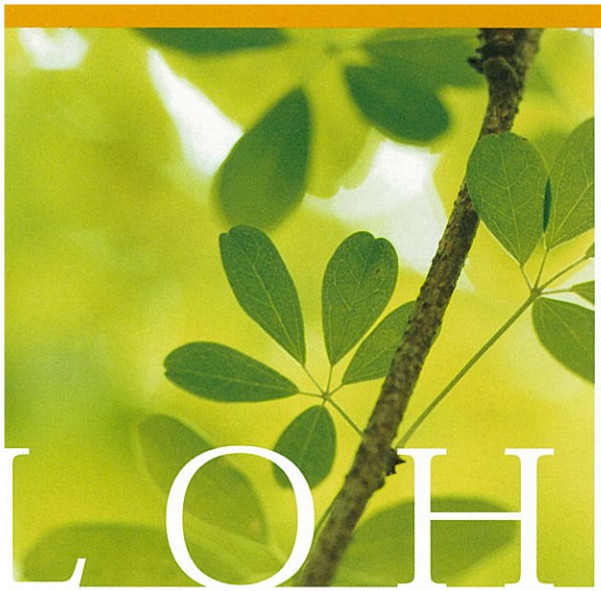


「まちとライフスタイルの明日を探る」セミナー 第二回

郊外都市における新しいライフスタイル

「ロハス」な暮らしとまちづくり

最近、「ロハス」という言葉を見聞きすることが多くなってきました。
ロハスとは、健康と環境に配慮した新しいライフスタイルの考え方で、
近年、わが国でも広まりつつあります。
そこで今回は、ロハスとはどういう考え方か、
今後、まちづくりとどのように関連していくのか——
という観点からお話いただきました。

「まちとライフスタイルの明日を探る」セミナー〈第2回〉

- 日時 2007年11月25日(日) 14:00〜17:00
- 会場 千里ライフサイエンスセンタービル サイエンスホール
- 主催 財団法人千里国際情報事業財団、日本経済新聞社
- 後援 国土交通省、彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会
- 協賛 阪急電鉄株式会社、阪急不動産株式会社

ライフスタイルのトレンド「ロハス」と新しい郊外居住

LOHASプロデューサー
LBA（ロハス・ビジネス・アライアンス）共同代表
大和田　順子　氏

近年、ライフスタイルのトレンドとして浸透しつつある「ロハス」。日本でロハスを最初に紹介された、ロハスプロデューサー・大和田氏に、ロハスの考え方の本質を分かりやすくお話しいただきました。

なぜ今、ロハスが必要なのか

まず初めに、最近色々な社会問題が起こっていますが、次の5つの問題に、私自身、とても心を痛めています。その5つとは、①ワーク・ライフ・アンバランスや心の病の増加②食糧自給率や木材自給率の低さ③相次ぐ企業の不祥事④地方都市の中心市街地の疲弊、農山村の過疎化⑤気候変動です。

「ワーク・ライフ・バランス」は、言葉の通り、仕事と生活のバランスという意味で、まさに現代の日本人は「ワーク・ライフ・アンバランス」な状態といえます。調査資料によりますと、週当たりの労働時間が50時間以上という人の割合は、世界各国と比較して日本が1位。従来では、労働時間に比例して国際競争力が高まっていたのですが、現在は、労働時間が増えても生産性が低下しており、労働者のうつ病の増加などの弊害も起きているのが現状です。

「食糧自給率や木材自給率の低さ」については、食糧自給率では日本は過去最低水準の39%、木材においては20%前後に。また、「気候変動」も深刻な問題です。温暖化のポイント・オブ・ノーリターン（引き返すことのできなくなる時点）は2016年頃と言われていますが、残り10年を私たちがどう過ごすか、どんなライフスタイルを持つべきなのか。この現実を変えるには、一人ひとりが価値観や行動を変えなければ問題解決には至りません。その社会を変えるのは私たちなのです。

ザ・ボディショップの創業者、アニータ・ロディック氏から教えてもらった「You can make a difference!（あなたは社会を変えることができる）」という言葉があります。まさにこうした問題を改善する新しい価値観、それが「ロハス」です。

ロハスとは、「Lifestyles Of Health And Sustainability」の頭文字で、「地球環境保護と健康な生活を優先し、人類と地球が共存できる持続可能なライフスタイル」と定義づけられますが、「健康」には色々な種類があります。身体の健康、心の健康、地域社会や地球全体の健康…など、その重なりのなかにロハスという価値観があるのです。

ロハスの故郷 コロラド州ボールダー

ロハスはアメリカの中西部、人口8.5万人のコロラド州ボールダー市で生まれました。ボールダーでは「まちの自然を守ろう」という取り組みのもと、消費税を使って市が周囲の緑地を買い上げ、今もなお自然が残された散策路を市民に開放しています。また、学

Contents

第1部 基調講演
「ライフスタイルのトレンド『ロハス』と新しい郊外居住」
講演者
LOHASプロデューサー
LBA（ロハス・ビジネス・アライアンス）共同代表
大和田　順子　氏

第2部 パネルディスカッション
「郊外都市における新しいライフスタイル」
～「ロハス」な暮らしとまちづくり～
司会進行
大阪大学大学院教授・博士（工学）
澤木　昌典　氏
パネラー
LOHASプロデューサー
LBA（ロハス・ビジネス・アライアンス）共同代表
大和田　順子　氏
三井不動産S&E総合研究所所長補佐
椎名　一博　氏
彩都建設推進協議会事務局長
澤田　範夫　氏

「ロハス」とは？

「LOHAS」（ロハス/ローハス）とは、アメリカ生まれのコンセプトで、Lifestyles Of Health And Sustainabilityの頭文字をとったもの。地球環境保護と健康な生活を最優先し、人類と地球が共栄共存できる持続可能なライフスタイルと、それを望む人たちの総称。

園都市としての性格も有し、市の中心地にあるコロラド大学や国の研究機関の関係者が人口の約1割ほど暮らしており、健康的で知的な層が全米から集まっています。また、ライフスタイルにおいては「歩行者優先のまちづくり」を唱え、市内には自転車専用道路が整備され、平日には、自然の中で自転車を置いて、木陰で読書をしている人の姿が見られる…そんな美しい自然と豊かなライフスタイルが両立しているまちなのです。

ロハス誕生の経緯とコンセプト

次に、ロハス誕生の経緯をたどってみますと、1998年、アメリカの社会学者ポール・レイが発表した「新しい価値観（カルチュアル・クリエイティブ）」という考えがその発端です。ポール・レイはアメリカ人を対象とした価値観調査を行った結果、アメリカ人が3つのタイプに分かれることを導き出しました。

その後、カルチュアル・クリエイティブ層を対象としたビジネスを行っている企業関係者への関心が高まり、「新しいビジネスを広めていこう」というコンセプトのもと誕生したのが「ロハス」という言葉で、毎年ビジネス会議が開かれ、その考えが全米に広がっていきました。

ロハスの視点で浮かび上がる「持続可能な社会」

カルチュアル・クリエイティブ層が好むライフスタイルをロハスの観点で捉えると、5つのセグメントに分かれます（表1）。この5つの「健康」が重なることで、「LOHAS」の「S」が表す"持続可能な社会"が創られるというわけです。具体的なキーワードを挙げますと、『食生活』においては、有機農産物、玄米菜食を中心にした食生活（マクロビオティック）、『服飾・美容』ではオーガニックコットンや自然素材の化粧品、『住宅』では環境に配慮した住宅やリフォームなど。また、近年では『余暇・観光』にもロハスが取り入れられており、今までは「消費することで余暇を楽しむ」という価値観がありましたが、現在は、旅先の土地で何かを学ぶ、地元の方と交流する、作る楽しさを享受したい、と思う人が増えてきつつあるようです。また、『精神面』では、「心を豊かにする」ことも重要な要素。現代の日本において、長時間労働が深刻化していますが、働きすぎるとなぜいけないかというと、「自分の能力を開発する時間が得られない」から。つまり、労働時間が長いとスキルアップを図るための時間が確保できず、その結果、個人の市場価値が下がっていく、という悪循環の繰り返し。この状態に欧米はいち早く気付きました。効率的に仕事を終え、空いた時間でセミナーなどに参加してスキルの向上に努めたり、または家族との時間を楽しむというようにライフスタイルを変換しているのです。

最後に、『持続可能な経済』。カーボンオフセット（※1）やグリーンビルディング（※2）、また彩都でも取り入れられているカーシェアリングなどがそれにあたります。

衣・食・住・学・遊からまちづくりまで、ロハスの観点で捉えてみると、このように持続可能な社会の姿が見えてくるのではないでしょうか。

※1…産業や生活から排出される二酸化炭素（カーボン）の排出を相殺（オフセット）するため、植林や自然のエネルギーを利用しようという取り組み。

※2…地球環境への負荷を出来るだけ少なくして、使う人に優しい建築、都市計画を進めていくこと。

[表1] ロハスの観点で捉えたライフスタイルの5つのセグメント

必要不可欠な10の視点

ロハスに必要な視点をまとめると、（表2）の10項目が挙げられます。このようなロハスの考え方が、日本でも雑誌「ソトコト」を筆頭にメディアを通じて広まり、資料（イースクエア調べ）によると、現在日本では4人に1人がロハス層だと言われています。また、さまざまな関連書籍や雑誌が発行されたり、CO_2削減に向けて発売された「カーボンオフセット年賀状」など、ロハスな取り組みは確実に増えつつあります。

かくいう私も、休日には会員制の貸し菜園で野菜作りを楽しんでいます。野菜作りをしていると、何月にどんな野菜が採れるのか、また無農薬で野菜を育てる大変さなどを知りました。こうした時間が、私にとってはロハスなひとときです。

LOHAS 10の視点

1. 生活起点 ▶ 社会・世界・地球的視野
2. 由来にこだわる
3. 毎日の暮らしで、できることから始める、楽しむ
4. ライフスタイル、ワークスタイル
5. 志と良心がある、意識の高いビジネス
6. 健康、環境、そして社会性
7. 日本の文化、暮らし、思想の再認識
8. 自然の一部、自然に愛されている感覚
9. サステナビリティは"思いやり"
10. 社会全体を造り変える：サステナブルな社会へ

[表2] ロハスに必要な10の視点

世の中を変えていくのは私たち一人ひとり

最後に、私たち生活者のこれからのライフスタイルについて提言しますと、①興味を持つ②情報収集をする③自分の基準を持つ④価格だけで判断しない⑤企業や製作者のこだわりを調べる、この5つが大切です。そして、近年企業では、CSR（コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ／企業の社会的責任）に力を注いでいるところが増えていますが、私たちに必要なのは「PSR（パーソナル・ソーシャル・レスポンシビリティ／個人の社会的責任）」をもつこと。そう、世の中を変えていくのは、"私たち一人ひとり"なのではないでしょうか。

「郊外都市における新しいライフスタイル」

「ロハス」な暮らしとまちづくり

「郊外都市におけるロハススタイル」をテーマにパネルディスカッションを開催。
郊外都市で取り組まれている「ロハススタイル」とはどのようなものか、またその必要性とは――。
各パネリストから、具体的な取り組み例を交えてご紹介いただきます。

「ロハス」を取り入れた郊外型ライフスタイル

「健康」と「環境」を大切に考える「ロハス」。2つの郊外都市における取り組みとは。

大阪大学大学院教授・博士（工学）
澤木 昌典

（財）関西情報センター、兵庫県立人と自然の博物館等を経て現職。環境共生や自然共生を重視した都市計画・地域計画に関する教育・研究を展開。地域の特性を生かしたまちづくりや環境学習等の市民活動も支援している。

研究室HP http://www.see.eng.osaka-u.ac.jp/ud/

澤木（司会進行） はじめに、「柏の葉」と「彩都」それぞれの郊外都市におけるまちづくりと「ロハス」の取り組みについてご紹介ください。

椎名 私たちの携わった郊外都市「柏の葉（かしわのは）」は、「環境・健康・創造・交流の街を創る」というコンセプトのもと、東京・秋葉原から茨城県・つくばまでを結ぶ「つくばエクスプレス」の中に誕生しました。今までのまちづくりでは、「マンションや商業施設を作って終わり」でしたが、「柏の葉」はソフト面を重視したまちづくり、いわばまちを「創る」ことに力点を置いたまちづくりプロジェクトを進めています。そして、将来的に「国際学術研究都市」として世界から求心力のあるまちを作っていきたいと考えています。

ロハスを取り入れた試みのひとつとして、「ケミレスタウンプロジェクト」があります。このプロジェクトは、近年取り立たされている「シックハウス症候群」を防ぐため、化学物質を低減した建材や家具等を取り入れた居住施設を建設する計画です。その他、農場レストランの展開や漢方を用いた診療所、ショッピングセンター内のフリークライミングウォール、環境に配慮したベロタクシー、オンデマンドバスなどサービス面での強化も進めています。また、今年6月には、柏の葉キャンパスに「千葉大学予防医学センター」が設立され、地元企業と一体となって「千葉大学予防医学プロジェクト」を進めようとしています。これは地域住民の健康データを継続的に追跡調査し、大学、地域の医療機関、地域住民、行政がお互いに協力しながら病気の予防や、住民の健康づくりの実際的な方法を開発・普及する活動です。以上が「柏の葉」で進められているまちづくりです。

澤木 首都圏でもまちづくりに対する取り組み方が変わってきているようですね。「彩都」ではいかがでしょうか。

澤田 「彩都」は現在1，800世帯5，200人が住まれており、今では彩都＝「バイオの拠点」として認知されていますが、その中で、彩都でも少しずつロハスの取り組みが始まっています。「環境」と「健康」という切り口で考えていきますと、「環境」という切り口では、棚田づくりや自然環境の保全、太陽光発電、カーシェアリングなどが挙げられます。また、「健康」という切り口では、「イーコミ健康クラブ」や「ガーデンモール」などもロハスな取り組みのひとつ。「イーコミ健康クラブ」では、自分の健康データをEメールで送信し管理する健康カルテ（有料）や専門スタッフによるアドバイスで、生活習慣の改善を行っています。また、彩都内の商業施設「ガーデンモール」では、"健康"をテーマに、京野菜や自然食材を取り入れた店づくりが展開されています。

澤木 「彩都」や「柏の葉」でのまちづくりに共通している「健康」「環境」というキーワードは、郊外のロハススタイルにマッチしているようですね。

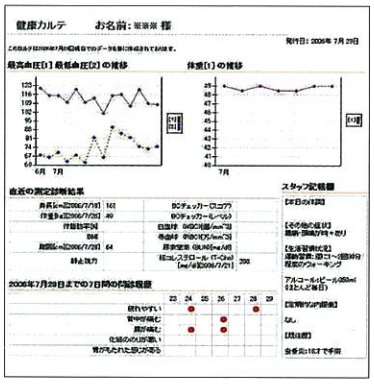
大和田さんは現代のライフスタイルにおけるロハスの広がりについて、どの

ケミレスタウンプロジェクト

［シックハウス症候群に関する社会的誤解がある］

- 現実的な住環境改善策を見出す
- 生活者と産業界に情報発信し、健康的な住環境形成を促し、学校、スクールバスなど都市環境全体に広げたい

■「柏の葉」が進める「ケミレスタウンプロジェクト」



■「イーコミ健康クラブ」の健康カルテ

ようにお考えでしょうか。

大和田　ロハスなライフスタイルを取り入れる際、家族の健康を気遣う意味でも「食」分野から取り入れられる方が多く、その結果、ようやく日本の有機農業物の市場規模も3,000億円程度にまで成長してきました。そして、「食」の次は「住」ということで、「自分たちの住んでいる家がどのような建材で作られているのか」という視点で「住まい」にも関心が及ぶようになってきています。自分や家族の健康と併せて、地球環境にも配慮したライフスタイルが確実に広がってきており、それに応える形で「彩都」や「柏の葉」のようなライフスタイル型のまちづくりも各地で始まったと見ています。

澤木　開発者側としては、「売れるまち」という付加価値が必要だという背景もありますが、大和田さんのお話では、健康、環境、食という ロハスに関連するライフスタイルでの付加価値が確実に広がりつつあるようですね。

LOHASプロデューサー
LBA(ロハス・ビジネス・アライアンス)
共同代表

大和田 順子

東急総合研究所、ザ・ボディショップ、イースクエア等を経て2006年4月に独立。2007年7月、ロハス・ビジネスのコミュニティLBA(ロハス・ビジネス・アライアンス)を設立、同年11月には「eco japan cup 2007」環境ビジネスウイメン賞を受賞。2008年2月13日に「ロハスビジネス」(朝日新書)を出版予定。

ロハスを取り入れた新たなまちづくり

浸透しつつあるロハスな取り組み。郊外都市のロハス的ライフスタイルとは。

澤木　それでは、開発者側から見たロハスタイルの展望や、住民の方との交流の中でロハスに関して実感されていることがあればお聞かせください。

椎名　「柏の葉」は、必ずしもロハスのみを意識したまちづくりを進めていたわけではありません。健康、環境などソフト中心のまちづくりを目指していった結果、大学教授や医師会、地域住民などさまざまなセクターの方と交わることで、新しい「まち」を作り上げていく期待感で一体となってきています。その結果、新しいまちづくりのひとつの基盤としてロハスを取り入れたことに意味があると考えます。もうひとつ大事なのが、「"イメージ"を可視的にする」ことや「"イメージ"を科学的根拠のあるものに生成する」こと。そうすることで、ロハスに興味のない方にも関心を持ってもらう。そのエッセンスを加えることがロハス浸透への基盤になってくるのではないでしょうか。

三井不動産S&E
総合研究所所長補佐

椎名 一博

1977年、東京大学工学部卒業後、同年(株)UG都市計画入社を経て、1989年に三井不動産開発企画部 開発事業課に所属。1995年、関西支社開発事業部 都市開発課などを経て、S&E総合研究所 上席主任研究員に就任。

澤木　「彩都」での取り組みはいかがでしょうか。

澤田　「彩都」のコミュニティサービスの一環として行っている会員制組織「彩都スタイルクラブ」では、近郊の棚田で野菜や米を育てるサークル「彩都ファーマークラブ」や朝市、里山サークルが開催されていたり、「彩都インフォミュージアム」内に併設された「健康プラザ彩都」ではヨガ教室や血圧チェックなどの健康セミナーが定期的に行われています。「あんなところに住みたい」と思っていただける場所にロハスが存在している。「彩都」がそんな場所になればと思いますね。

澤木　「柏の葉」と「彩都」の2つのまちづくりのお話を聞くと、ロハスの確かな広がりを感じているのですが、大和田さん自身はどのようなご感想をお持ちですか。

大和田　特に注目したのは、彩都の会員制組織「彩都スタイルクラブ」について。

彩都建設推進協議会事務局長

澤田 範夫

1982年、大阪市立大学大学院工学研究科(都市計画専攻)修了後、大阪府庁に入庁。以降、指導行政、公共建築、まちづくりに従事。2007年、彩都建設推進協議会事務局長(大阪府住宅まちづくり部居住企画課)に就任。

やはり「売ったらそれで終わり」ではなく、住民たちが「わがまちをどう良くしていくか」と主体的にコミュニティづくりに取り組んでいけるような、開発者側の仕組みづくりが素晴らしいと思います。

澤木　ロハス的な生き方を望む人が増えてきつつあるのかもしれませんね。彩都では「彩都スタイルクラブ」が、柏の葉では大学や医師会を中心にロハス的な仕組みづくりが用意されていますが、今後、「柏の葉」や「彩都」において、ロハスの広がりをより支援していくための施策やビジョンなどがございましたらお聞かせください。

椎名　ロハスとひと言で言っても、その観点はさまざま。その中で、「柏の葉」は何に取り組んでいくかというテーマをあえて設定し、意識共有を図ることが有効だと考えたのです。それを作り上げていく過程で、分野横断的なつながりが必然的に生まれる。その中で、我々はデベロッパーとして何をお手伝いできるか、を日々模索しています。

澤田　大阪府では、今年「大阪LOHASプロジェクト」が発足しました。府下のものづくり企業等が集まって、「販売戦略」「デザイン」「広報戦略」の各専門家によるアドバイスをいただき、ロハスに代表される環境・健康志向の消費者のニーズに応える商品にしていくための支援を行っているプロジェクトです。また、農林部局では都市と農村をつなぐコミュニティとして「ロハスライフ支援事業」を設立。以上のような取り組みを「彩都」でも取り入れられればと考えております。

ビジネスとしての「ロハス」

経済の発展と環境保護の両立を目指す「ロハスビジネス」に必要なものとは。

澤木　会場の皆様から、「中小零細企業がロハスをコンセプトとした商品サービスに転換する際の商品開発で、必要となることはありますか?」というご質問が挙げられています。大和田さん、椎名さんお答えいただけますでしょうか。

大和田　私が主宰しております「LBA（ロハス・ビジネス・アライアンス）」には、80数社が参加されているのですが、法人は半分の43社、あとは個人事業主の方やこれからロハスビジネスを始めようと考えている方です。その方々を対象に、「ロハスビジネスの始め方講座」を開講しています。経営者の方々へのアドバイスとしては、一般のマーケティングとは異なるロハスビジネスに必要な「5つの黄金ルール」（表3）をしっかり認識していただくことが大事ですね。

椎名　「柏の葉」で紹介した「ケミレスタウン」は、シックハウス症候群の子どもたちのための実証実験施設という側面を持ちながら、「健康に良い建材とはどんなものか」ということを研究し、企業業績に反映させていく"循環"という側面も持ち併せています。どんなプロジェクト

「柏の葉」位置図
都心とつくばを結ぶ「つくばエクスプレス」の中央部分に位置する「柏の葉」。産・官・学・民が協調して取り組みを進めている新しいまちづくりです。

LOHASビジネス 5つの黄金ルール

- ルール1　経営者自身がLOHASの価値観を持つ
- ルール2　ミッション経営を行う 環境・社会的責任にもヴィジョンを持つ
- ルール3　オリジナリティを大事にし、品質やデザイン性に関し基準を持つ
- ルール4　ステークホルダー（顧客・従業員・取引先など）と共感・信頼関係を築く
- ルール5　収益性・社会性そして透明性を追求する

▼

ステークホルダーの幸せ、サステナブルな社会の実現へ

[表3] LOHASビジネス 5つの黄金ルール
※「ロハスビジネス」朝日新書より

でも経済性は重視されますが、そこにしっかりとした科学的根拠を持ち、ブランド足りうるだけの信頼感を構築した上での基盤を作ることが大事ですね。

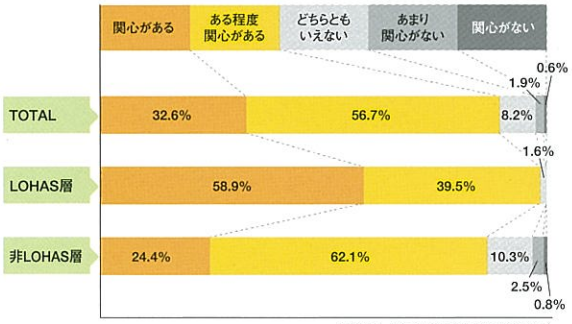
澤木　続いての質問ですが、「ロハスな生活を通して、国や企業と同様に個々の家庭にもCO_2の削減目標を持つべきか」というご質問をいただいております。皆さんのお立場からご意見をお願いいたします。

澤田　来年、大阪府で計画を進めておりますCO²の削減の取り組みとして、「WEBサイト・エネルギーダイエットマイレージ(仮)」を企画中です。これは、まちぐるみで環境家計簿をつけようという試みで、企業参加を求め、経済性を付加していきたいと考えております。ただ、その運営には、まちぐるみでの取り組み、またそれを担うコーディネート役が必要。そこで、彩都では毎週土曜日に「かんきょう未来塾」を開催し、未来のコーディネーターの育成に努めています。

澤木　大和田さんはどのようなご意見をお持ちですか。

大和田　先ほどお見せしました温暖化問題への消費者調査(表4)を見ても分かるとおり、実際にロハス層の人に限らず、地球温暖化や環境問題に関心の高い人が多いことに驚きました。ただ、「ご家庭のCO²排出量は知っていますか?」と聞くと、ほとんどの方が「知らない」と答えています。また、私自身も今年「カーボンオフセット年賀状」を使用した際に、「1枚あたり5円の寄付金は、どこにいくのかしら?」と疑問に感じたのですが、実際には、途上国での自然エネルギー開発のためなどに使われるそうです。やはり、購入者への情報の公開が極めて重要で、このように「サステナビリティ」が可視化されると理解が深まりますね。つまり、自分の家庭から排出されるCO²をカーボンオフセットしようと支払ったお金が、どこで、どのようなCO²削減活動に使われているのか。それが分かることで、環境問題への「興味」が「行動」に繋がっていくのではないでしょうか。

澤木　私は環境・エネルギー工学を専攻しておりますが、これまでの「環境配慮行動」には、どうも"自己規制"という側面が強かったように感じています。ただ、ロハスはそれとは違い、ロハス派の人や企業が地球環境を保全する価値観を共有し、広がっているように感じますね。



[表4] 温暖化問題への関心度

出典:ジーコンシャス調査(2007年10月)

ロハス誕生の地 ボールダーとは

LOHAS生誕の地、コロラド州ボールダーは、人口85,000人の決して大きくないまちですが、全米からスポーツや自然が好きな知的富裕層が集まるまちとして知られています。今から40年も前に、市の周辺の土地を市が買上げ、自然を残すという施策をとり、また市内に大型のディスカウントスーパーは出店させない、歩行者専用道路のあるショッピングエリアや自転車専用道路など、人中心のまちづくりがなされてきました。

また、自然食やヨガ、禅など東洋の文化に影響を強く受けた人たちがもともと多く住んでいました。1960年代後半から70年代にかけてヒッピーやニューエイジと呼ばれた人たちで、ロハスも彼らの文化、つまりカウンターカルチャーの系譜を受け継いでいます。

彼らは、「このままでは地球はダメになる」ことに気づき、早くからオルタナティブな生活提案を実践してきました。その価値観を一言で言うと、「脱・西欧文明」です。西欧文明の進歩主義に限界を感じた彼らは、東洋思想や異教的文化に親近感を抱き、五感や身体性、女性性を重視します。

またボールダーには、「オーガニック&ナチュラル」を重んじるコミュニティと「スピリチュアリティ(精神性)」を重視するコミュニティの二つがあり、ロハスも両方の流れから影響を受けています。このため、自然へ回帰することや汎神論が受け入れられ、ヨガや瞑想で精神性を高めることがロハスの特徴の一つになっています。【大和田　順子】

■ボールダーの街並み

ロハススタイルの展望

これからのライフスタイルに欠かせないロハス。郊外におけるロハスの展望とは。

澤木　最後に、郊外における「ロハス」の課題、提案などがあればお願いいたします。

大和田　「彩都」も「柏の葉」も、今まさに始まったばかりのまちづくり。どんなことにでもチャレンジできる舞台があるわけですから、ぜひ郊外型の「ロハススタイル」のモデル都市として、新たなライフスタイルを実践できるまちづくりを行っていただきたいと思っております。

椎名　開発事業者の立場から申しますと、郊外では資金を回収するのが難しい側面がありますが、新しいまちづくりとしてのテーマは必ずしも地域内だけのものである必要はないのです。地域を越えて連携し、そしてその資金を有効利用できる価値を見出せれば、さらなる展望が開けていくのではないでしょうか。

澤田　これから「彩都」では、引き続き中部・東部地区の山を開発していくので、「環境に配慮していないのではないか」との声も聞こえそうですが、大事なのは、その後どうまちを作っていくか。「彩都」の目指すべきまちというのは、「環境に徹底したまちづくり」。そのテーマに共感していただいた方が移り住んでいただければと願っております。そして、「ロハス」のまち・彩都として、海外からも見に来ていただけるようなまちづくりを目指したいですね。

澤木　今回は大和田さんをお招きして、「ロハス」について、また椎名さんや澤田さんに「柏の葉」や「彩都」でのロハスな取り組みなどを議論いただきました。近年、地球環境や食の安全性が取り立てされている中、多くの国民がロハスな生活を志向したいという欲求があり、そんな環境で暮らせるまちづくりが増えていくのではないでしょうか。

「柏の葉」や「彩都」がその先端的な立場として「ロハス」を取り入れ、その取り組みが郊外都市という枠を越え、さらに既成市街地にも広がっていけばと思います。

■「彩都」の街並み

Access

都心梅田へ18km圏内。
快適なアクセスを使いこなす
都心と結ばれた便利な“まち”。

大阪モノレール彩都線「彩都西」駅より

■北大阪急行線

「千里中央」へ …… 直通 17分

「梅田」へ …… 35分

※朝ラッシュ時・深夜帯は千里中央～彩都西駅で直通運転。

■阪急京都本線

「南茨木」へ …… 17分

「梅田」へ …… 34分

※乗り換え時間は含みません。

■彩都エリアMAP

戸建・宅地の最新情報や阪急＆彩都の歴史パネルを展示！ ぜひお立ち寄りください！

cube3110 彩都インフォ*ミュージアム

Hankyu 阪急電鉄　阪急不動産

0120-5-3110-5（ゴーサイトゴー）
営業時間／午前10時～午後6時（定休日：火・水曜日）

彩都のポータルサイト www.e3110.com（イーサイトドットコム）